當院建立ノ由来

侍石ノ住人故野口園右衛門ハ（大正ニ至リ野口栄作家名ヲ継承ス）
紀元二千四百年人皇百十四代桜町天皇ノ
御宇八代将軍徳川吉宗公時代ノ人ナリ
妻ハ田ノ浦伊東家（大正ニ至リ伊東源吉家名ヲ継承ス）ヨリ
出ヅ　帯妻数年ニ及グモ子ナシ　深ク之ヲ憂フ
偶々或人ニ聞ク　天草嶋ニ奉安スル普賢菩
薩ハ霊験著シト　即チ夫妻手ヲ携ヘテ天草
嶋ノ普賢院ニ詣デ一子ヲ挙ゲシメ賜ハンコトヲ誓願
シ籠拝スルコト一七ケ日ニ及ブ　爾来旦夕同院ヲ
信念礼拝スルヲ常トス　其霊験ノ然ラシムル所カ
翌元文五年（月日不詳）一男ヲ挙グ　善五郎ト
名ヅク　長スルニ及ビ善五郎亦普賢菩薩ヲ尊
信シ毎年天草嶋ニ詣ツルヲ例トセリ　善五郎ハ
身ノ長六尺　躰力衆ニ超ユ　好ンテ相撲ヲナス　或ル
年天草本道ノ市ニ同興行アリ　乞フテ其競
技ノ伍ニ列セリト云フ　善五郎ノ逸話多々アリト
雖モ建立由来ニ必要ナケレバ茲ニ略ス　時ニ善
五郎熟々思フラク　人生常ナシ　我信念ノ為メ
毎年天草嶋渡来モ一朝事アルニ於テ或ハ
無念ノ臍ヲ噛ムヤモ計ラレサルヲ覚リ　乃チ天草ノ
石工ヲシテ同地ニ奉安スル尊像ヲ模擬彫刻
セシメ背ニ負フテ家ニ帰リ朝夕礼拝怠ラス　或ル
夜ノ事普賢菩薩ハ夢ノ如ク幻ノ如ク善五
郎ノ枕辺ニ立チ現ハレ給ヒ告ケテ宣ク　予ヲ祀ルハ
自宅ニ於テスルモ稀可ナリト雖モ望ムラクハ高燥ノ地ヲ
選チヘシ　子丑ニ方リ高サ数丈ノ岩窟アリ云々ト
言ト終ルヤ英姿忽チ消エ給ヒ夢全ク覚メタリ
之ヲ以テ善五郎ハ當山ニ登リ岩窟ヲ尋ヌ　幸ヒナルカナ
高サ五丈餘ノ岩窟アリ　中央ノ岩窟ハ神佛
安置ニ適スルヲ以テ大ニ喜ビ直ニ奉移安置セリ
時ニ安永元年月日ナリ　之ヨリ毎年野口家ヨリ
祭祀シタリ　而ルニ文化ノ頃ニ至リ熱病諸方ニ流
行シ延ヒテ侍石ニ及ヒ不幸ニモ善五郎ノ一家其病
魔ノ侵ス所トナリ文化四年卯八月善五郎没シ
同年九月其子（長男）興吉モ亦没セリ　然ルニ安永
元年ヨリ文化四年ニ至ル殆ト三十有餘年間ハ
野口家ヨリ祭リシモ其后侍石組合ト共同祭祀
スル事トナリシト云フ　□

矢上宿名秋祭リノ起因

安政頃善五郎ノ孫野口嘉左衛門ハ矢上村庄屋ヲ勤ム
弟傳吉ハ宿名二丁目前田衛十方（大正ニ至リ前田亀太郎家名ヲ継承
ス）ノ養
子タリ（后チ離別シテ泉田家ニ入ル　大正二至リ泉田巳六家名継承
ス）前田家亦神佛信仰ノ家ナリ　時ニ
熱病諸方ニ流行シ宿名亦蔓延ス　町内ノ人々
大ニ虞レ庄屋所ノ承認ヲ得テ所々ノ神佛ニ祈願ヲ
籠メ特ニ當院ニハ裸躰願ヲナス等以テ病魔ノ
退治ニ努メタリ　之ヨリ宿名二丁目ハ前田家ヲ始メ
毎年秋七月祭リヲナス事トナレリ　時ニ安政四年七月ナリ

大正十一年二月吉日

血族者織